

## 09.6.1 広域連合議会の全体的な内容（時系列で作成 赤文字は重要箇所）

### 1. 広域連合長 開会あいさつ(関連箇所)

次に、ごみ処理広域化について申し上げます。

ご案内のとおり、本年1月から2月にかけて実施いたしました、「ごみ処理施設建設に関する住民アンケート調査」の結果につきましては、残念ながら白馬村民の皆様からご理解を得るには至らず、飯森地区を候補地として、事業を進めることを断念いたしました。

こうしたことを受けまして、今後の進め方につきましては、今般実施されました白馬村議会議員選挙や、大町市議会におきます申し合わせ任期により、関係市村の議会構成が変わっておりますこと等を踏まえ、慎重かつ迅速に再度、調整を進めることが求められております。

今後、現在の広域ごみ処理計画について再度点検を加えますとともに、各市村におきまして、広域化のメリットやデメリット、既存施設の現状などにつきまして、各市村の住民の皆様にご理解いただいたうえで、今後、広域により事業を進めてまいりました経過を踏まえ、広域又は単独の枠組みを含めご協議いただき、その結果の集約に基づき、幅広域連合としてどのように進めていくのか、検討を進めて参りたいと考えております。

ごみ処理広域化につきまして、今までにいただきましたご意見の一部には、「広域化処理によらず、各市村の単独処理とするべきではないか」とのご意見もいただいております。ごみ処理の枠組みのあり方は、非常に重要な問題でありますので、迅速に進めることを前提としつつ、慎重に検討を進める必要があります。結果を得るまでに若干時間を要することも想定されますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、枠組みの如何にかかわらず、ごみ処理の具体的な検討を進めるに当たりましては、専門家や住民代表にも幅広くご参加いただくとともに、検討の状況を広くお知らせしていくことが肝要と考えております。

### 2. 本会議における「補正予算」の項での質疑（要点）

（大和議員）アンケート調査結果が判明した直後の当議会で上程された「関係影響調査」関連予算 6730 万円の平成 20 年度内執行（決算期限までの執行の意味）は難しい状況にもかかわらず今回削除提案がない。いったい、どんなタイムスケジュールを考えているのか？

（連合長）飯森が白紙になったので、計上したものを何がなんでも執行するものではない。今後、広域か単独かを含め3市村で協議をすることになっている。方向が定まれば使うことになるかも知れない。スケジュールは、今は対策を協議中で明確には答えられないが、迅速且つ慎重に進めたい。

（感想：決算期は8月か？どう考えても広域化を再確認し、なおかつ予定地を決めることは不可能だけに苦しい言い訳だが、額面通り受け止めれば強引に一気に進める可能性があり、その点は警戒が必要。）

(太田副連合長) 白馬は新しい議員が決まったばかりでもあり、これからの相談になる。村としての対応を議会で話をしていくことが先決と考える。

(大和議員) 先頃行なった大町市の説明会の内容には、次のような特徴がある。

① 大町市単独が良いのか、広域で進めるが良いのかを聞いている。

(補足：「広域化支持」の積極的な意見はなかったというのが、6 会場に出席した大和議員の捉え方ようです。)

② (ストーカー方式以外の) 別な方式も考えられると説明している。

③ 用地選定は、住民・専門家を交えてやりたいと説明している。

④ (白馬山麓の施設使用期限がまだ先であることに配慮し、大町市の負担分を多くする) 4 年分の協定の見直しを申し入れたいと説明している。

白馬・小谷も、住民にこれ (今までのような広域化計画のまま) で良いのかを聞く場をつくる必要があると思う。住民の意見をどう聞くつもりか。

(太田副連合長) 白馬村の考え方をどうするか立ち返る必要がある。議会構成が新しくなり、(議会に諮って) 地域の理解を得られる方法論から詰めたい。

(感想：「村民の理解」と言わず、「地域の理解」と曖昧に答えるところが太田村長の優柔不断な一面。あるいは、意図的なずらしか?)

(小林副連合長) ごみ処理広域化が望ましいと考えていて、今まで (村民にも) そう説明してきたし、これからも広域化の流れで進めたい。

(感想：連合長挨拶にもあるように、改めて各自治体の意見集約が求められていることへの認識が全くない発言。この姿勢は、このあとの「ごみ処理広域化特別委員会」での発言でも変わらなかった。特別委員会直後、新聞記者 3 名が「本気でやる気があるのか?」と訊ねたようだーある記者からの聞き取り。)

\*その後、大和議員の質問に浅見議員が野次を飛ばすなど不穏当な動きがあった。議事進行上の動議としてきちんと発言しない浅見議員の言動や、これを制止しなかった議長の態度はいただけない。

### 3. ごみ処理広域化特別委員会(13:30~)

ごみ連協が提出した陳情審査の為に開かれた。議会事務局が、陳情内容を説明したあと、大厩 (おおまや) 新委員長は「広域連合事務局から説明したいという申し出があったのでこれを許します」と白沢係長の説明から入った。

(補足：中村敬さんによれば「陳情に関連し、冒頭から行政の説明を許すことなど論外」と言うのは道理だが常態化している。)

(白沢係長)

① 住民から 2 年間の反省をとの要望があり、住民アンケート結果の考察と言うことで、メリット・デメリットをまとめているところだ、成案になったら公表していきたい。

② 再出発に当たっては経過を含めて再検討するため、住民意見を反映し広域化の枠組みを

含め3市村に意見をまとめることを要請中である。再び広域化を進めることが確認された場合は、3市村で検討していただき意見の浸透を図りたい。

- ③ 別紙のような検証試案を作成中。減量してもなお残るごみのための処理施設は必要。白馬の施設はダイオキシン対策を終えているとはいえ炉は当初のものであり、いつ大規模な改修が必要になるかわからない。ごみ減量化と処理施設整備は同時に進行することが必要と考える。

#### 【資料1】


### ④ ごみ処理施設建設に関する住民アンケート調査の結果に対する考察（案）

飯森候補地の地元説明にあたっては、ごみ処理広域化についてをはじめ、候補地選定項目や選定の経過、計画施設の内容や候補地の適否などについて、様々なご意見やご提言をいただいた。

これらの意見等を含め、本年2月に白馬村民を対象に行った住民アンケート調査の結果について、同意を得ることができなかった要因を検証し、その要点を次のように整理した。

- ① 広域連合という大きな枠組みの中で、住民に十分な理解がいきわたらなかったことに加え、ごみ処理広域化の理念、必要性和そのメリットについて、広域化計画策定や候補地選定の過程での周知広報が十分でなかったこと。
- ② 飯森地区が最適地として候補地に選定された理由について、十分理解を得るまでに至らなかった。特に、候補地は客観的な選定項目に基づき圏域全体から選定したが、人口の多い大町市内ではなく白馬村内に選定されたことへの疑問を払拭することができなかったこと。
- ③ 候補地の選定に当たり、選定過程で経過を公開することは住民の混乱を招くと考え、構成3市村の行政職員が用地選定委員会を設け、選定を進めるとともに、選定の検討経過を非公開としたことにより、選定過程の公正・透明性について十分理解が得られなかったこと。
- ④ ごみ処理広域化は、ごみ減量化を進めた上で、なお発生するごみを広域で処理するものであることや、広域化計画におけるごみ減量化の目標、3市村でのごみ減量の取り組み状況について、的確な情報提供ができなかった。また、「白馬山麓環境施設組合の現有の焼却施設は、耐用年数が残っており、早急に新施設を建設するのではなく、ごみの減量化を図った上で、より規模の小さな施設を建設すべき」との意見に対し、十分な理解を得るに至らなかったこと。
- ⑤ 地元同意を得るための住民説明に当たり、地元同意の範囲、方法等の設定が明確でなかったこと。

【資料2】


 ごみ処理広域化のメリット・デメリットの検証結果（案）

項目		比較内容	検証の結果
経済面	メリット	施設の集約化により、スケールメリットが生じ、施設建設費や維持管理費の削減が期待されます。	広域化の最大のメリットは、現在、構成3市村内に2施設ある焼却施設を1か所に集約することで、施設建設費や維持管理費の削減を図るところにあります。
	デメリット	収集運搬距離の延伸に伴い、運搬経費の増加や、中継施設等の整備費用が発生する可能性があります。	運搬経費は、広域化により増加が想定されますが、施設建設費と維持管理費の削減により、ごみ処理に係る経費全体では経費を抑制することが可能となります。
環境面	メリット	施設の統合、集約化により、環境への影響を低く抑えることが可能となります。 また、建設費が削減できる分、環境や景観対策に充てることができます。	施設を分散させず、集約化して、環境対策を講ずることにより、環境への影響を低減することが可能となります。 また、景観にマッチした施設デザインに配慮したり、緩衝帯を広くとることにより、施設をより目立たなくする工夫などができます。
	デメリット	廃棄物や運搬車両が集中することに伴い、施設周辺の環境負荷の増加や、運搬距離の延伸による車両からの二酸化炭素発生量が増加する可能性があります。	ごみ減量化を推進することにより、運搬車両の台数の削減を図り、周辺環境への負荷の低減を図ります。

技術面	メリット	ごみ処理の集約化に伴い、一定量のごみが確保でき、ごみ質の均一化に伴い安定的な施設の稼働が可能となるとともに、より高度な技術を活用することが可能となります。	ごみ処理の集約化に伴い、一定量のごみが確保でき、ごみ質の均一化に伴い安定的な施設の稼働を図ることができます。 なお、ごみ量の確保を目的として、構成市村以外のごみまで持ち込んで焼却処理することはありません。 また、ごみ減量を進めても、なおかつ出てしまうごみを適正に処理するため、ごみの減量化を進めるとともに、処理施設を適正規模とし、より高度な技術を採用することとしています。
	デメリット	技術面において、想定されるデメリットはありません。	
資源化面	メリット	ごみ処理の集約化に伴い、一定量の資源物の量が確保できるため、流通過程での合理化を図ることができます。	3市村が連携して、排出区分や収集形態の統一を図り、資源化率の向上を図ります。
	デメリット	ごみの収集段階において構成市村内の排出区分や収集形態の統一を図る必要があります。	

(大和議員) 3市村でこれから協議を進めるとの説明だが、白馬・小谷は村民ではまだ村民の意見が聞かれていない。2村の進め方の考えを聞きたい。

(太田副連合長) 議員選挙があった村の事情を前提に理解願いたいだが、白馬村はいまごみ問題への関心が高まっていて、まさにこれからという状況だ。何もしなかったのではなく、議会とすり合わせが必要と考えている。陳情の内容は全てを否定するものではないが、透明性を重視し村民の声を大前提と考えている。今後時期のズレはあるかもしれないが(村民の意見を聞く場は)進める。

(小林副連合長) ごみ処理広域化がふさわしく、そう(村民にも)話してきた。まだ広域化の枠組みが崩れたわけではない。

(大和議員) 枠組みが崩れたわけではないとして、単独処理のことを含めて村民に改めて問おうとの姿勢がなく、(大町市との)ギャップが心配だ。

(補足：前述のように、改めて民意を問うことは徹底的にやりたくないとの態度に終始している。)

## 陳情審査

(浅見議員) 今までのすずめ方に謝りは無かったと思うが、検証は当然。だが、基本計画に立ち返る時間的余裕は大町にはない。ごみ減量化は同時進行すればよく、陳情には反対。

(勝野議員) 今までの経過を見れば、広域化自体の再検討も必要。そのために検証も必要だが、3市村で協議を行なっていく段階での(陳情採択に)難しさもある、継続審査がよい。

(〇〇議員) 陳情はよく分かるが、認められかとなれば躊躇する。今は検証を行っている最中で、(住民・行政は) どうしてよいかわからないところにきているのではないかと市民懇談会に出ていて感じた。足並みのばらつきに困っているのではないか。また、再出発の方法論もこれだけではないと思う。施設建設と減量化は同義でもなく、陳情にノーとは言えないが加味して考えていければよい。現時点では継続審査がよい。

- \* 議長が、「継続審査の意見が多いので、継続審査に賛成の人は挙手を」と求め、浅見・大和議員以外の賛成多数で継続審査となる。
- \* 広域連合事務局より、3市村村民有志のアピールについて「あて先は定かでないが」として、届いたので配布したとの説明。
- \* 「検証案はいつ確定となり、住民に公開するか」との議員からの問いがあり、最終は3市村長会で確認後、出来る限り早く公開するとの事務局の答えあり。

(検証案への感想：検証には行政の進め方が誤っていたとの具体的な表記はなく、行政が自己正当化したい姿勢を感じる。また、4.の後半「『白馬山麓環境施設組合の現有の焼却施設は、耐用年数が残っており、早急に新施設を建設するのではなく、ごみの減量化を図った上で、より規模の小さな施設を建設すべき』との意見に対し、十分な理解を得るに至らなかったこと。」からは、赤文字部分のアピールが白馬村民の判断を大きく動かしたと広域連合が強く認識していることが分かる。(表現は分かりにくく、不適切)

## 一般質問質疑の要点(ごみ関連のみ)

(勝野議員 大町市) 広域連合として今後ごみ問題をどのような手法で進めていくか

(連合長) 飯森を撤回しなければならなくなったと考える要因として、事務局作成中の検証案から6点をあげて説明。4項の、前半と後半を分割し、後半は「白馬村民に十分な理解が得られなかった」旨の表現でまとめていた。) 用地選定委員会に住民代表を入れなかった手法は自己弁護しながらも、今後3市村で広域化の枠組みを含む意見集約の中で、広域化が再確認されたら、用地選定委員会の公開を含めて、住民の意見が反映できるように見直すとした。

(勝野議員) ごみ施設は無くてはならない。住民の意見を反映させ、行政・議会一丸となって2年間のブランクを、早く取り戻してほしい。

(原議員 小谷村)

ごみ施設は欠かせない。今ある(白馬山麓の)施設は老朽化し、1日も早く建て替えなければいけない。飯森は撤回になったが、私たちは広域化で進めるのが一番良いと思う。今後どのように進めるつもりか。

(感想:「施設は老朽化し、1日も早く建て替えなければいけない」は、事実関係をゆがめる誤認識。村長も村長なら議員も議員だ。)

- (1)アンケート結果から候補地を白紙撤回とした経緯と検証
- (2)候補地の選定をどのようにすすめるか(勲匠)・鋒叡
- (3)ごみの減量、再資源化施設について、
- (4)稼働目標年度について
- (5)処理計画の情報公開について
- (6)住民合意形成について

(連合長)

(1)用地選定を行政職員のみで非公開で行なったことが受け入れられなかった理由の一つ。広域化のメリット・デメリットに理解を得られなかった。稼働中の施設についての実情も理解してもらえなかった。

(感想:結果的に原議員の老朽化発言を追認したことは問題。)

- (2)透明性・公平性が重要であり、広域化の枠組みが再確認されたら学識経験者・公募住民を入れて進めたい。
- (3)新施設の燃やすごみの日量は基本計画策定時のもので、直近データに見直さなければいけない。各市村のごみ減量目標とその実情を踏まえたい。
- (4)3年の遅れは避けられない。
- (5)今までの動きは、それなりの情報公開に努めてきたが、実際は徹底していなかった。HP・広報誌などによる方法を工夫しなければいけないと考えている。
- (6)住民合意(の対象は)「地元区」が多く、そのように考えることで具体的に検討していきたい。

(原議員) 住民合意が一番大切で、一番難しい。情報公開を徹底する中で決断を。この狭い地域に、同じような(小さな)施設を2つ造るべきではない。勇気を持って決断して欲しい。

(連合長) 住民合意を前提に判断は果敢にしたい。ごみの分別や減量は住民の実践なしには出来ないが、地球規模での考えなければいけない重要なテーマだ。総論賛成だが、いざ身近に施設が建つとなると意見百出だ。行政の業務としての責任を自覚し取り組むので、議会の協力もお願いしたい。

以上